
たとえば空が青いなら

本田こころ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たとえば空が青いなら

【Nコード】

N4612J

【作者名】

本田ころる

【あらすじ】

もう、どうでもよかったのだ。

「辞めてやる」、そう決めてから、その響きだけが灰色の日常に1点の光をもたらした。

序章

クーラーの切れた部屋は蒸し暑い。リモコンが遠くに転がっていて、手を伸ばしても届かず、かといって起き上がるのも面倒だった。窓を開けることだって同じだ。

その窓の向こうでは夏を告げる蝉がやかましく鳴いている。盛んな「生」を感じて、ベッドの上で顔をしかめた。

いつもなら通知表にずらりと並ぶはずの『5』が姿を消すであるうことも、無遅刻無欠席、無早退、ついでに言えば無欠課で守り抜いてきた『皆勤』も。

毎夜繰り返される悪夢と、飛び起きるときのあの嫌な感じ。背中や額に滲む脂汗さえも。

ぜんぶが全部、どうでもよかった。

だって私、やめるって決めたんだから。

初めて学校を無断欠席したその日、私は薄暗い部屋でパソコンの電源を入れた。

1・麻痺

この気持ちは何なのか。それを言い表す術を知らない。自分でもよくわからない。それでも、……それだからこそ、なんだかもう、ね。

私の気持ちに関係なく、大嫌いな夏が、迷惑で暑苦しい空気とまとわりつく湿気とを引き連れて、またやってきた。

*

この何とも言えない気分は、3年目も途切れることなく続いていく、と思う。感じることもできないほどに感覚が麻痺しているけれど。

高校に入学してからというもの、級友同士探り合っただけで、心休まる時なんかなかった。探り合いは3年目、つまり受験生になってから激化した。今日もまた然りだ。ホームルームの済んだ教室ではみんなにこやかに「今日のくらい勉強するの」「参考書はなにをつかっているの」「私なんか全然やってないよ」なんて言い合っている。ばかばかしい。やっていない、とか何時間、とか。どうでもいいだろう。

頭に軽い頭痛を感じる。またいつものやつだ、こうなると寝付くまで頭が中心がジンジンと痛む。舌打ちをする。そして帰路につい

た。

私の通う高校は、超が付いてしまうほどの秀才エリート私立高、「星陵学園高等部」。中学三年生の時、ここに入学することを目指した理由はいたってシンプルだ。知り合いが一人もない学校に入りたかった、それだけ。後になって気付いたけど、この学校は家から近く、通うのには好都合だ。

偏差値は通っている私でさえ怖いくらいに高い。大抵は付属の初等部、中等部とエスカレーターで上ってきた生徒で埋まる高等部に、地元の公立中学からの進学をするモノ好きは一握り。そしてその一握りの中から、約2年半前、たった一人合格したのが私だ。ただ、別にこれは自慢じゃない。私は知り合いから離れたかった、それだけだから。

とにかく、まんまと星陵に潜り込んだ私は今日までの毎日、ひたすらノートを文字で埋め、脳のシワに先生の一言一句を刻みつけることに全力を注いでいた。なにもそれは私に限ったことではない、と思う。星陵高等部に入ったが最後、若さも時間も全部吸い取られてカラカラになるほど勉強せざるを得なくなる。それがいいことなのか悪いことなのか、考える暇も与えられない。わかるかな。私が今、こんなことを考えているってことは既に星陵生にあるまじきことなんだよ。

もっとも、家にいてもそれくらいしかやることがなかった。勉強くらいしか。

つまらない毎日。

消えていく色。

同じことを繰り返すのは苦痛じゃなかった。ただ、苦痛に感じない自分は感覚がおかしいんだろかなと、ぼんやりとおもっていただけ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4612j/>

たとえば空が青いなら

2010年10月22日00時23分発行